

所 属 : 個人所属
型 式 : アレキサンダー・シュライハー式ASK23B型 (滑空機)
登録記号 : JA2384
発生場所 : 埼玉県妻沼滑空場
発生日時 : 平成10年 6 月30日 10時22分ごろ

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

JA2384は、平成10年6月30日、操縦教員の監督の下、単独飛行による操縦訓練のため、操縦練習生（以下「練習生」という。）のみが搭乗し、10時20分ごろ妻沼滑空場第1滑走路14からウインチ曳航により発航したが、上空で左翼と曳航索が接触、同索を引きずった状態のまま、10時22分ごろ同滑空場にハードランディングし、機体を損傷。

搭乗者数	1名 (操縦練習生)
搭乗者の死傷	負傷なし
航空機の損壊	中破

1.2 航空事故調査の概要

主管調査官が、平成10年7月1日、現場調査を実施。
意見聴取を行った。

2 認定した事実

2.1 乗組員に関する情報

操縦練習生 男性 21歳

操縦練習許可書	調管第19号
有効期限	平成11年 5 月21日
総飛行時間	17時間28分 (発航回数125回)
同型式機飛行時間	0時間07分 (発航回数 1回)
単独飛行時間	1時間01分 (発航回数 8回)

操縦教員 男性 50歳

自家用操縦士技能証明書 (滑空機)	第2673号
限定事項 滑空機上級	昭和43年 7 月 9 日
操縦教育証明 (滑空機)	第320号
	昭和46年 7 月 8 日

総飛行時間	1,958時間00分 (発航回数7,884回)
最近1年間の操縦教育飛行時間	257時間25分 (発航回数1,213回)
同型式機飛行時間	0時間15分 (発航回数 1回)

2.2 航空機に関する情報

型 式	アレキサンダー・シュライハー式ASK23B型
総飛行時間	1,175時間03分

2.3 現場調査

(1) 機 体

- ・ 前脚取付構造部 破損
- ・ 左主翼前縁 曳航索による擦過痕

(2) 曳航索

- ・ 曳航索は機体索フックから離脱しており、左主翼取付部上面に接触しパラシートを引きずる状態。索切れは、なし。

2.4 気象に関する情報

発航管理者によれば、事故当時の気象は次のとおり。

天気 晴れ、風向 120°、風速 2m/s、視程 10km以上
操縦教員によれば、直前の飛行では付近に顕著な下降気流なし。

3 事実を認定した理由

3.1 練習生などの口述は、概ね次のとおり。

- ・ 練習生によると、高度約100m、速度約110km/hにおいて「曳航速度が早い。」旨を無線でウインチ曳航者に通報。しばらくして急減速を感じ、速度獲得のために機首下げ操作を行ったが速度が回復せず、曳航索切れと感じ曳航索離脱ノブを操作。その後、失速と感じ操縦桿を前方最大位置へ操作。強い衝撃と音を感じ、操縦桿を一杯に引く。操縦困難を感じた。接地時ブレーキを使用して停止。
- ・ 地上のウインチ曳航者によると、「曳航速度が早い。」旨を受信し、ウインチ出力を減少。同機がほぼ水平姿勢になったのでウインチ出力を増加、直後に急降下姿勢。曳航索離脱の様子はなく曳航を継続。機体が上下動を繰り返し、機首が下を向いた時に機体左側に索パラシュートらしきものを視認、曳航を中止。同機は機首を大きく上に向けた後、数回バウンドして着陸。
- ・ ピスト付近にいた操縦教員及び曳航索担当者の口述を総合すると、同機が水平飛行に移り速度が低下したように見えた直後、機首が大きく下を向き、翼を上下

にばたつかせながら急速に高度が低下。左翼の向こう側に見えた曳航索が左翼に接触、その状態のまま接地。一度大きく跳ね、次に接地後停止。

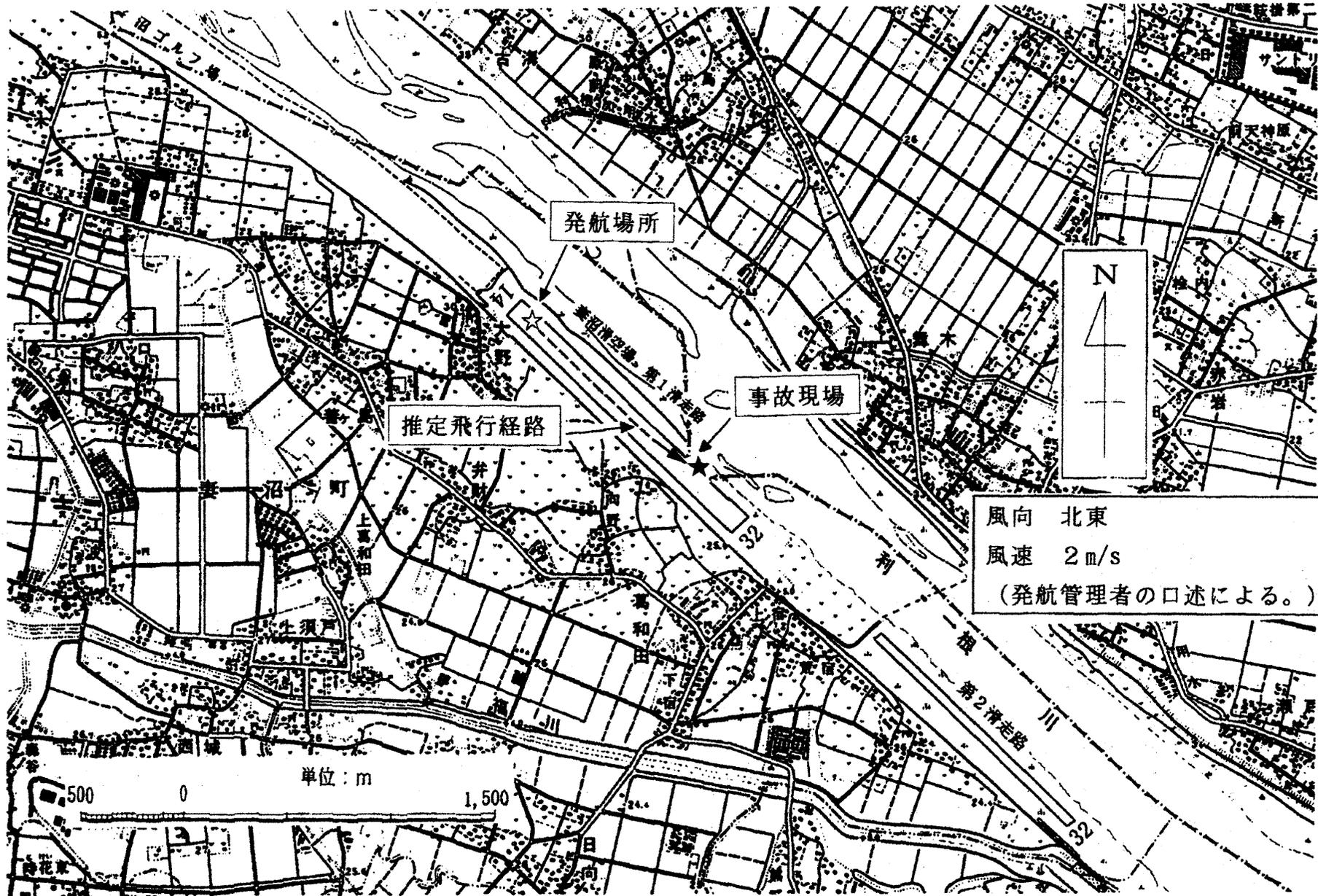
3.2 解析

現場調査の結果及び口述を総合すると、同機がウインチ曳航により発航中、練習生が曳航索切れと判断し離脱操作後、失速と感じ急激な機首下げ操作を行った結果、離脱した曳航索に接触。左主翼で同索を引きずり、操縦困難状態のままでハード・ランディングし、機体を損傷したものと推定。

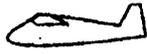
4 原因

本事故は、同機がウインチ曳航により発航中、曳航索に接触、同索を引きずった状態のままでハード・ランディングし、機体を損傷したことによるものと推定。

付図1 事故現場見取図

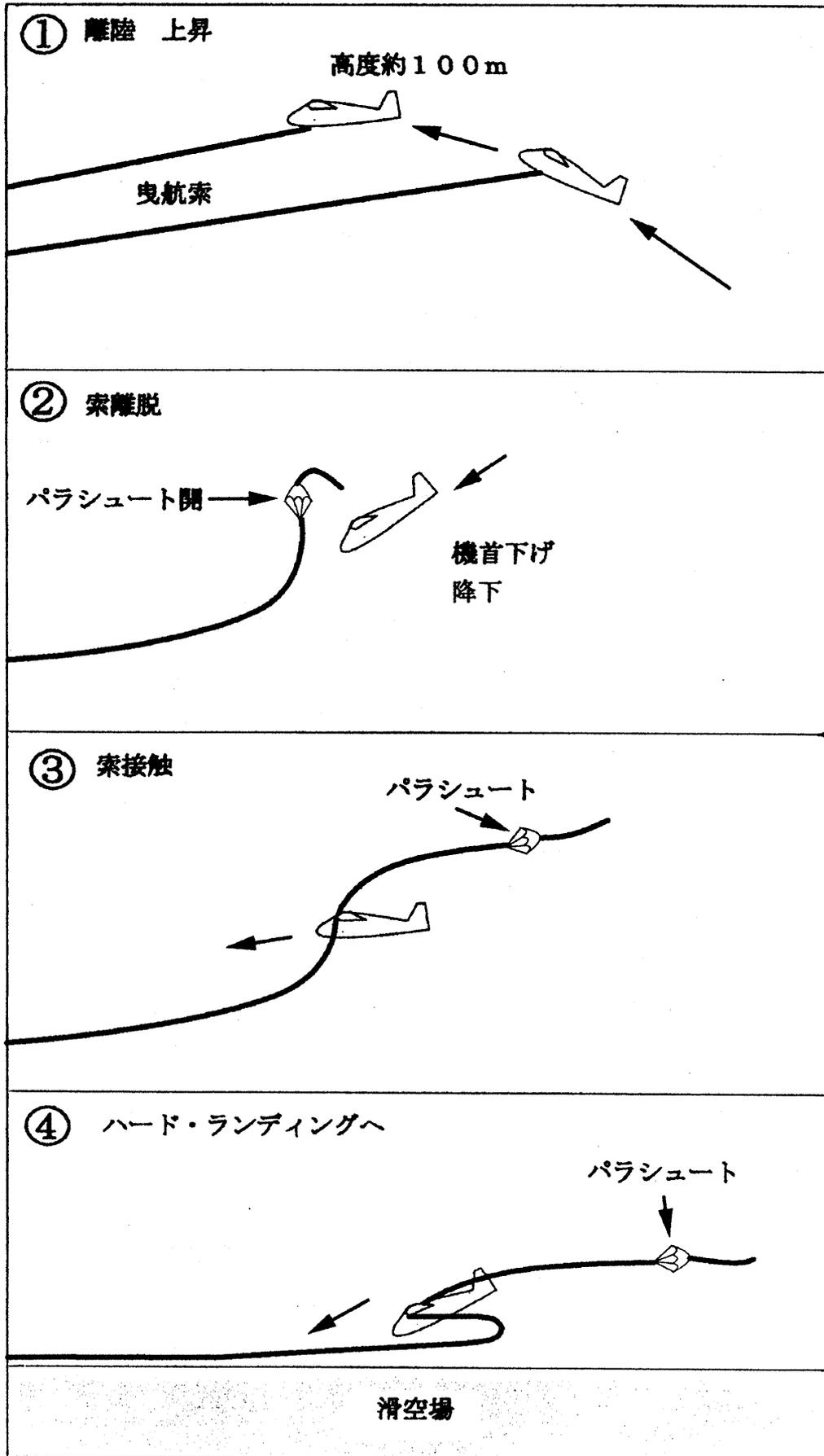


付図 2 飛行経過の推定図



JA2384

左翼方向から見る。



付図3 アレキサンダー・シュライハー式
ASK23B型三面図

単位：m

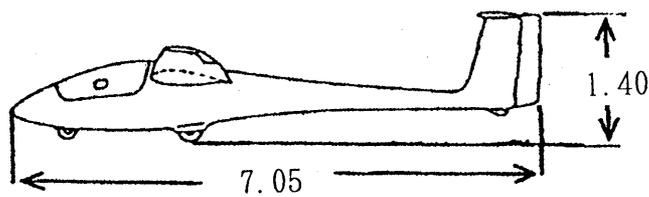
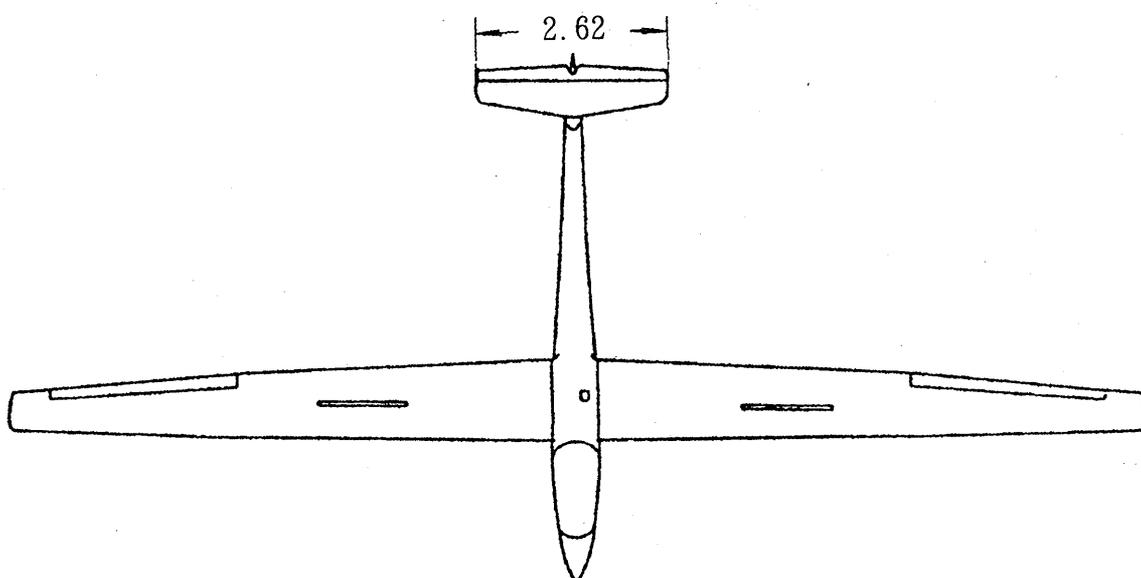
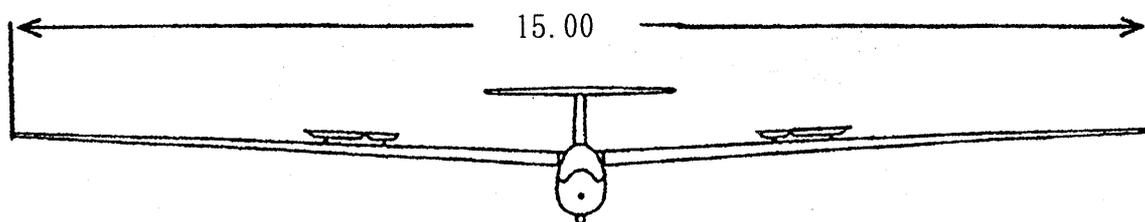


写真 1 事故機

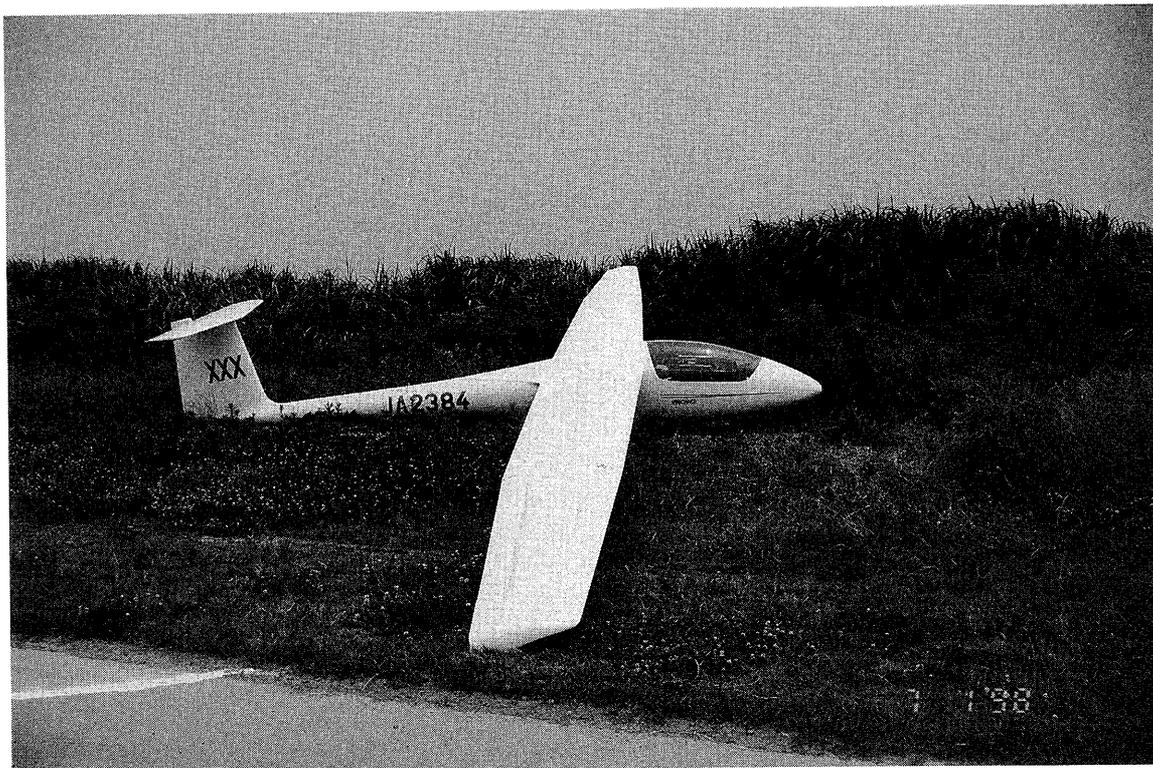


写真 2 左主翼取付部付近の曳航索

